

瀬戸内海国立公園

日本最大の国立公園となっている瀬戸内海国立公園は、瀬戸内海地域のおよそ 67,000 ヘクタールに広がっています。3,000 におよぶ内海の群島、六甲山地、鳴門海峡の渦潮、ユネスコ世界遺産の厳島神社を擁する広島沿岸沖の聖なる島「宮島」など、瀬戸内海には多彩な風景が広がっています。瀬戸内海は日本最初の国立公園でもあり、初めて国立公園法が制定された 3 年後の 1934 年に国立公園に指定されました。

内海の群島は世界有数の自然美の場所として認識されると同時に、歴史と伝説の舞台として長いこと知られてきました。1185 年には、700 年におよぶ日本の武家支配につながる争いの決戦となった「屋島の戦い」が、敵対する平氏と源氏の間でこの地で繰り広げられました。この史実は、1800 年代に内海を訪れた外国人が残した言葉と同様に、この地域を日本で最初の国立公園とする決定に影響を与えました。ドイツ人植物学者フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796~1866 年）や同じくドイツ人の地理学者フェルディナント・フォン・リヒトホーフェン（1833~1905 年）といったヨーロッパ人は、屋島から望むと特に美しく見えると言われる群島の風景を賞賛しました。